



# 日刊 動労千葉

86. 12. 15

No. 2431

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

# 実効決起で「中曽根プラン」を粉砕せよ

## 国鉄攻撃

**国労の旗守る 11・30集会・国労共闘基調報告**  
**闘う戦列の、強固な建設を** (要旨)

「11・30国鉄労働者全国交流会」において国労共闘・吉野元久氏（国労東京）が国鉄労働運動破壊の攻撃、とりわけ国労解体の密集せる攻撃に対し総力をかけて闘いに突入せよとの基調提起を重大な決意をこめて行った。



（基調報告にたつ 国労共闘・吉野代表 11月30日・日仏会館）

これから本格的な闘いが

分割・民営化の凶暴さ、国鉄労働運動解体にかけたすさまじい反動の中で法案が通過した時に大半の人達は「もうこれで闘いは終りじゃないか」と感じたと思う。これから本格的な闘いがはじまることについて確信をもつて提起したい。

最近の商業新聞論調にもかくしきれないほどでている問題だが、重大な法案審議がどれほど行われたのか、誰の目から見ても全く尽くされていない。

改革と称してはじめられた問題がひとつでも解決したのか。すべて先送りされ、何ひとつ問題解決する能力がないことが明らかになった。

中曽根プランは崩せる

中曽根は、問題解決は全く不可能だということを実証している。だから、攻撃が凶暴、傲慢な形をとっているが、国鉄内部から分割・民営化絶対阻止の旗を掲げて闘うならば、国策であろうと彼ら自らもろくも崩れ去っていく事態をつくりだすことができることを法案審議の中で証明した。

中曽根プランは、国鉄労働運動が完全に根絶・一掃されたことを前提にしなかつたら成立しないプランだ。

十二月中旬に、設立委員会、労働条件提示、進路アンケート調査をやるといふ。

まさに、分刻み、秒刻み。しかも、北海道・九州は二人に一人が職場から、住んでいる所からたたき出される。これを前提にした新会社移行が抵抗・反撃を受けないなんて絶対ない。

この矛盾の背景に国家財政破綻。鉄鋼・造船・

石炭に示される中曽根の体制危機の激化がある。そして、アメリカ中間選挙が終り日米争闘戦が激化することが明らかとなり、彼らに展望は全くない。

こうした時代だからこそ労働者が立ちあがって中曽根体制と対決・打破していく力をもたない限り、自らの生活・権利を守ることはできない。

闘わなければ組織も守れない

動労千葉は、あらゆる反動をはねのけ闘いぬいでいる。協会・革同といわれる人達は、動労千葉の闘いに対して「時機尚早」と言い、前委員長・山崎は「法案強行には組織の総力をかけ闘う」などといったこの間まで言っていた。ストライキにも立ちあがることのできなかった国労はいつたいうなってしまうのか。

闘わなければ組織すら守ることはできない。すべての組合員・家族に対して責任をとりきる方針提起と、闘いに責任をとりきって指導すべき強力な部隊がいまこそ必要である。

来年四月まで僅か残された数カ月、自らすべての存在をかけたすさまじい闘いの飛躍とともに立ちあがってかちとろう。

## 11・30国鉄労働者全国交流会



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！